

第4号 かわら版	【大槌町地域復興協議会】 第3回地域別協議会の開催報告	【事務局】 大槌町復興局復興推進室 電 話：0193-42-8714 F A X：0193-42-3855
-------------	--------------------------------	--

2011年11月19日作成

～ 地域の将来像を検討しよう 特色ある復興計画づくり ～

現在大槌町では、碓川町長のもと平成 23 年 12 月を策定目標とした「大槌町震災復興計画」の作成に取り組んでおります。町では、町内 10 地域に「地域復興協議会」を立ち上げ、この協議会を通じて、現状や課題を踏まえた将来像を議論して頂き、復興計画に反映させていくこととしております。

平成 23 年 11 月 12 日（土）、13 日（日）の 2 日間にわたり、8 地域（町方地域、桜木町・花輪田地域、小枕・伸松地域、沢山・大ヶ口地域、安渡地域、赤浜地域、吉里吉里地域、浪板地域）で 3 回目の復興協議会が開催されました。また、小鎚地域と金沢地域では第 1 回目の復興協議会が開催されました。

第 3 回目では、「復興パターン（案）を絞り込む」をテーマに、第 2 回協議会でみなさんから出された意見を踏まえ、事務局で修正した復興パターン案を叩き台として、地域ごとの復興の将来像を絞り込む作業を行いました。小鎚地域と金沢地域の復興協議会では、今回の震災を教訓とした地域の役割について話し合いました。

参加された町民のみなさんからは、これまでの議論を踏まえた地域の今後のあり方についての様々な意見が出されました。このかわら版は、その内容を町民のみなさんにお知らせするために作成したものです。

大槌町地域復興協議会 11月12日・13日開催概要

- 第3回町方地域復興協議会【新町、大町、本町、末広町、須賀町、栄町、上町】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土）13:30～15:30 ○場所：城山体育館アリーナ ○参加者： 55 名
- 第3回桜木町・花輪田地域復興協議会【桜木町、花輪田、白沢】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土）13:30～15:30 ○場所：中央公民館第一会議室 ○参加者： 18 名
- 第3回小枕・伸松地域復興協議会【小枕・伸松】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土）13:30～15:30 ○場所：中央公民館婦人室 ○参加者： 34 名
- 第3回沢山・大ヶ口地域復興協議会【沢山、大ヶ口、源水、迫又、柁内、前段、和野】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土）13:30～15:30 ○場所：城山体育館武道場 ○参加者： 17 名
- 第3回安渡地域復興協議会【安渡、港町、新港町】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土） 9:30～11:30 ○場所：安渡小学校体育館 ○参加者： 56 名
- 第3回赤浜地域復興協議会【赤浜】
○日時：平成 23 年 11 月 13 日（日） 9:30～11:30 ○場所：赤浜小学校体育館 ○参加者： 34 名
- 第3回吉里吉里地域復興協議会【吉里吉里】
○日時：平成 23 年 11 月 13 日（日） 9:30～11:30 ○場所：吉里吉里中学校体育館 ○参加者： 74 名
- 第3回浪板地域復興協議会【浪板】
○日時：平成 23 年 11 月 13 日（日）13:30～15:30 ○場所：浪板交流促進センター ○参加者： 28 名
- 第1回小鎚地域復興協議会【蕨打直、一の度、種戸、徳並、長井】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土） 9:30～11:30 ○場所：小鎚多目的集会所 ○参加者： 26 名
- 第1回金沢地域復興協議会【下屋敷、対間、戸保野、安瀬の沢、中川原、中山、戸沢】
○日時：平成 23 年 11 月 12 日（土） 9:30～11:30 ○場所：金沢支所 ○参加者： 16 名

☆ 次回開催案内

第 4 回地域復興協議会（※小鎚地域及び金沢地域は第 2 回復興協議会）は以下の日程で開催します。

協議会名	日時	場所
町方、桜木町・花輪田、小枕・伸松、沢山・大ヶ口地域復興協議会	11月26日(土) 13:30～	城山体育館
安渡地域復興協議会	11月26日(土) 9:30～	安渡小体育館
赤浜地域復興協議会	11月27日(日) 9:30～	赤浜小体育館
吉里吉里地域復興協議会	11月27日(日) 9:30～	吉里吉里中体育館
浪板地域復興協議会	11月27日(日) 13:30～	浪板交流促進センター
小鎚地域復興協議会	11月26日(土) 9:30～	小鎚多目的集会所
金沢地域復興協議会	11月26日(土) 9:30～	金沢支所

各地域で話し合う協議会は今回が最終回となります。多数の参加をお待ちしております。

第3回町方地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- ・ まちの中心として、旧来の城山・旧街道沿いの市街地としての再興を目指すとともに、小鎚川沿い(寺野方面)や大槌川沿い(白沢方面)にも公共施設群を配置する方向で検討する。その際、役場・病院・学校などの重要な公共施設は、安全面や利便性を十分に考慮して配置を検討するべきである。
- ・ 津波から迅速な避難ができる場所を居住地とし、津波による浸水も考慮したより安全な区域にコンパクトに住むことが望ましい。また、非居住地域を設定する場合は、移転候補地の検討や事業計画の立案を早急に進める必要がある。
- ・ 町民に対しアンケート調査を実施し、居住要望の実態を把握する必要がある。
- ・ 防潮堤は、高さ T.P.14.5m とする。地域の安全性や事業の実現性を考慮して検討を重ねていく。防潮扉は人力ではない開閉方法を検討する。
- ・ 防潮堤だけではない津波からの防御方法として、防潮林の整備、津波防御ビルの整備、河川堤防の嵩上げの整備を行うべき。
- ・ 城山への避難道の整備や道路の拡幅を行い、迅速に避難できる仕組みを検討する。また、高齢者にも優しい避難方法を検討する。
- ・ 産業振興・雇用拡大の方法として、観光に力をいれていくべきである。

第3回桜木町・花輪田地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- ・ まちづくりの方針として、現在の居住地をそのままとし、避難所や避難道の整備や河川堤防の嵩上げを行うことで、より安全なまちとしていくことが望ましい。
- ・ 防潮堤は、T.P.14.5m で検討する。ただし、コンクリートでは圧迫感があるので、植樹を行うなどの配慮が必要である。
- ・ 小鎚川の河川堤防の嵩上げ、支流水門の整備、排水設備の充実を行い、地域の安全性をより高める。
- ・ 洪水による被害を抑えるために、河床の浚渫(しゅんせつ)や障害物の除去などを定期的に行うことも必要である。
- ・ 桜木町地区では、新しい避難施設の整備、城山につながる連絡道の整備、高台への避難道の整備を行う。花輪田地区では、生井沢の水路や道路の整備、避難施設の整備、寺野へ抜ける避難道の整備を行う。
- ・ 今後整備される三陸縦貫道にアクセスできる道路を整備する。
- ・ 小鎚川兩岸の道路機能の強化を図る。あわせて歩行者が安心して通行できるような空間や施設設備を図る。
- ・ 現在仮設の小中学校が寺野にあり小鎚川上流に仮設住宅が建設されていることから、交通量が増加しており、交通安全対策を行う必要がある。
- ・ 桜木町地域と花輪田地域を結ぶ新たな橋梁の整備を行う必要がある。
- ・ 新たなアイデアとして、桜木町と大ヶ口を結ぶ区間を開発し、そこに新市街地を形成しても良いのではないかと。

第3回小枕・伸松地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- ・ 住宅や集会所などの住居系の施設は小枕と伸松に挟まれた土採場を候補地として移転し、安心して暮らすことができる住宅地を整備する。また、他地域への移転や、町方からの移転者の受け入れも考慮する。
- ・ 低地部は産業用の用地として利用し、低地と高台を連絡する道路を整備する。
- ・ 伸松地域の防潮堤は、町方と同レベルのものとする。小枕地域の防潮堤は、現況の高さ(T.P.6.4m)で良い。
- ・ 新しい居住地は、これまでのコミュニティを維持するために、被害を免れた住宅と一体となったものとして整備を目指す。
- ・ 生活再建までの時間を短縮するために、公営住宅を整備することも検討する。
- ・ 災害が起こっても孤立しないように、小鎚川沿いの林道を整備して国道 45 号との連結を強化する。
- ・ 避難道は車で逃げることができるように拡充し、高齢者も安全に避難できるような緩やかな勾配とすることが望ましい。
- ・ 小枕地域の沢筋に避難道を整備する。
- ・ 中心市街地が城山周辺に復旧する場合、伸松・小枕地域と分断される心配がある。道路整備を行い、一体化を図る。
- ・ 漁港の早期再開を望む。

第3回沢山・大ヶ口地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- まちづくりの方針として、現在の居住地をそのままし、より安全な居住地としての再興を図る。
- 三陸縦貫道大槌インターと国道 45 号を中心に地域の活性化を図る。大槌インターから安渡までの道路を産業用道路として整備する。
- 大槌北小の北側に小中一貫校を誘致し、大槌高校と合わせて町の文教拠点とする。
- 防潮堤は、T.P.14.5m とし、元の住宅地を再生するとともに、町方からの移転者を受け入れることができるような宅地整備や公営住宅の整備を図る。
- 源水・大ヶ口地区から城山へ通じる避難道を整備する。また、大槌北小学校や大槌中学校から高台へ通じる避難道を整備する。その避難道は、高齢者や車椅子利用者でも避難し易いものとする。
- 洪水対策として、大槌川の河川堤防の嵩上げを望む。また、源水川と大ヶ口川への水門の修繕及び設置を要望する。
- 大槌川の大槌北小学校前に架橋し、交通や通学の利便性の向上を図る。
- 孵化場裏側、三陸道トンネル坑口の両横、大ヶ口・城山間の林道の上部に避難所を整備し、備蓄倉庫と電源及び通信（衛星電話）設備を整備する。
- 県道大槌川井線の渋滞対策及び「かみよ稲穂館」への避難路として、大枳橋から小松野橋までの山側に避難路を整備する。また、大枳橋は老朽化のため架け替えが必要である。

第3回安渡地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- 海の見える高台を中心として安渡地域の住民ができるだけまとまって居住し、T.P.14.5m の防潮堤を設けた上で低地を産業などの用地として用いる。
- 安渡小を子育てや高齢者福祉、生涯学習など多用途且つ高密度に利用し、国道 45 号線と合わせて、ここをまちの中心として整備する。
- 高齢者でも不便を感じないような公営住宅の整備を行う。
- 高台から港へ向けて、「住宅」－「公共施設」－「商業・産業」の繋がりをもった開発を行い、車での避難も想定した幅員と高齢者に配慮した勾配での避難路としてまちの軸線を形成する。
- 高台における沢山地区や赤浜地区との連携を強化するために、避難道としても使える道路を整備する。
- 高台まで距離がある低地については、津波避難ビルを整備し、安心して就業できるようにする。
- 防潮堤はできるだけ海側に設置して活用できる土地を広く設け、波が一箇所に集中しないようめらかな線形とする。
- 大槌川沿いの道路を産業道路として活用できるようにする。
- 防潮堤には防潮扉を設けず、スロープにて港と行き来できるようにする。

第3回赤浜地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- 「赤浜地区震災復興計画案」(赤浜の復興を考える会作成)を基本とし、それをさらに発展させた計画とする。
- 防潮堤は、現況の高さ(T.P.6.4m)を基本とし、盛り土を行った上で高台への移転を検討する。
- 蓬莱島への眺望など、景観などの地域の資源も赤浜の大切な財産として捉える。
- 今回の津波でも浸水しない安全な高台に居住することを基本とする。
- 県道釜石吉里吉里線を山側に嵩上げて路線変更し、後背地を盛土して住宅地とする。
- 旧児童館付近より三丁目住宅地への避難道を併設した高台住宅地を造成し、日常の集いの場と災害発生時の避難場所となるシビックセンターをこの付近に設ける。
- 赤浜小学校裏地より安渡地区へ通じる林道へ接続する避難道を設置する。林道は拡充し、避難道及び搬送路としての充実を図る。
- 県道は港付近のトラックなどの大型車両が避難することも想定した幅員に拡幅する。
- 防潮堤には防潮扉を設けず、スロープにて港と行き来できるようにする。
- 盛土だけでなく、切土による宅地造成も考慮する。

第3回吉里吉里地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- まちづくりの方針として、安全を最優先としたまちづくりを考える。高台移転を行う際は、地域がバラバラにならないようにする。また、景観や環境に配慮することも大切である。
- 国道 45 号線より山側に新設道路をつくり、その内側を盛り土し、宅地や商業地とする。また、吉里吉里中学校周辺も宅地として整備する。
- まちの中心は旧道沿いとして、公営施設や病院などを配置する。
- 居住は、被災エリアより高い場所にコンパクトに住むことを基本とする。
- 海側の被災したエリアは、非居住エリアとして産業地・農地・湿地・公園とする。
- 漁協エリアや産業エリアには、津波襲来時に迅速に避難することができる施設（避難ビル）を整備する。
- 防潮堤は、T.P.12.8m で検討をしたい。防潮堤の海側は吉里吉里の誇りである綺麗な砂浜の復元を目指す。
- JR山田線を越えて山側に抜けることができる避難道を整備する。また、避難道は日常でも使いやすいものとして整備を行う。
- 地震が起きたらすぐ逃げるという意識づけ(津波教育)を町や地域ぐるみで行う必要がある。
- 漁業の復旧を迅速に行う必要がある。土地利用を早期に決めて再開を急ぐべきである。

第3回浪板地域復興協議会で議論された「まちづくりの方向性」

- 思わず散歩したくなるようなまちづくりを行い、観光地としての浪板の復興を目指す。
- 国道 45 号線を迂回する T.P.16m の道路を山田線沿いに整備し、津波からの防御力を高める。また、この道路より山側を盛り土し、眺めのよい商業地、住宅地として整備する。
- 町の中心は浪板交流促進センター周辺とし、ここを中心とした主要な動線上に消防屯所や郵便局を整備する。現在買い物ができる場が無いので、スーパーなどを誘致する。
- 被災したエリアを非居住エリアとし、公園やレクリエーションの場として整備を行う。松やハマナスを植えて、観光地としての再興を図る。また、宿泊施設の整備も行う。
- 防潮堤は整備せず、今回の被災箇所よりも高いJR山田線から三陸縦貫道の間に新しい居住地を形成し、安全かつコンパクトな居住地をつくり出す。
- 浪板交流促進センターへアクセスする避難路の拡幅など機能改善を行う。
- 吉里吉里へと繋がる山裾の道路について、新しい居住地との連携も考慮した整備行う。
- 三陸縦貫道への緊急時の出入りが可能な坂路の整備を要望する。
- 現在仮設住宅となっている土地について、公営住宅の候補地とする。

第1回小鍬地域復興協議会で出された意見（抜粋）

- 金沢と小鍬の両地域を結ぶ道路を整備するべきではないか。震災時に使うルートとしても必要である他、現在小鍬に仮設団地が出来て交通量も増えたので不便を感じている人も多いだろう。地域の交流・活性化のためにも必要である。
- 冬場でも新山にアクセス可能な道路を整備することが重要である。
- 停電時でも調理できるような施設や食料備蓄が必要である。また、沢水や薪もあることから、これらの自然エネルギーを活用した災害に強い地域づくりも行うことができるのではないか。
- 小鍬地域は高齢化も進み農業の担い手も少ない状況である。町方からの移転者を募って活性化を図ることも検討するべきである。

第1回金沢地域復興協議会で出された意見（抜粋）

- 震災時には国道45号が寸断し町方は孤立してしまっただが、土坂道路と国道 106 号は役立った。この道路がなかったら大槌町全体がどうなっていたかわからないことから、より一層の整備や拡充を望む。
- 金沢支所は避難所の位置付けがなかったが、町方から多くの町民が避難してきた。金沢地区の人は自然発生的に被災者を支援したが、マニュアルがあれば良かった。非常時に備えた公共施設のあり方を見直してほしい。
- 金沢地域の各家庭では避難した方を受け入れた。この在宅避難者への支援が手薄だったと思う。
- この地域は、津波被災時の後方支援基地として位置づけるべき。物資の備蓄、医療・介護支援など復興計画に取り入れてほしい。